

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】

令和 6 年 6 月 21 日

評価対象事業		評価者	高齢者いきいき課長 荻田 信幸	
健福-26	老人福祉センター管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	高齢者いきいき課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	4-(1) 健康福祉	施策の方針	4-(1)-①多様性のある福祉サービスの充実

1 事業の目的

対象	高齢者(本市に住所を有する60歳以上の者)
意図	健康増進、教養の向上、レクリエーションのための機会を供与するため。
効果	外出やコミュニケーションによって、高齢者の健康的で明るい、生きがいのある生活を実現する。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・名越やすらぎセンター、教養センター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンター及び腰越なごやかセンターの管理運営業務を指定管理者に委託した。 ・各センターの施設修繕を行った。 ・物価高騰による経費負担が増大した老人福祉センターの指定管理者を支援するため、光熱費及び燃料費の価格高騰分に対する補助金を交付した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	老人福祉センター運営事業	指定管理料、光熱費補助金	老人福祉センターの利用者数(人)	110,833人 / 181,942	145,677人 / 180,683	116,000人 / 183,063	76.09%
02	老人福祉センター維持修繕事業	維持修繕料	—	- / 26,117	- / 15,565	- / 100,901	
			財源内訳				
			国県支出金	1,790 /			
			地方債	/		52,400	
			その他特定財源	25 / 25		25	
			一般財源	206,244 / 196,223		231,539	
			事業費の合計(千円)	208,059 / 196,248		283,964	
			人件費(千円)	/ 4,558		5,455	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.9	0.6	0.6	0.6	0.7	
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	老人福祉センター運営事業	新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少していた利用者数は回復傾向にあるが、当初目標としていた人数は下回った。	外出やコミュニケーションの機会を増やすうえで、老人福祉センターは重要な役割を果たしており、適切な管理運営を行うことで福祉サービスの充実が図られている。	指定管理者と十分な連携を図り、利用者のニーズに合った施設運営を行い、利用者の増加につなげることが必要である。
02	老人福祉センター維持修繕事業	施設の維持修繕は築年数による老朽化に比例し、必要となる修繕を行っていくことが目的であるため、指標の設定になじまない。	安全に施設が利用できる状況を維持するために必要不可欠な事業である。	名越、教養、今泉及び玉縄の各センターは、築20年から築40年経過しており、老朽化が進んでいるため、限られた予算で計画的な修繕等を実施していく必要がある。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない	
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み	
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない	
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある	
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している	
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-1 今後、負担の導入を検討すべき事業がある
	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施	△-2 市民等と協働して実施する事業はない
協働			協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
老人福祉センターの健全な維持管理のため、現状通りの事業を実施する。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	老人福祉センターの利用者数(延べ人数)						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
高齢者の外出やコミュニケーションの場として活用されていることが確認できるため。	目標値		145,397	145,537	145,677	116,000		
	実績値	66,951	103,357	109,754	110,833			
	達成率		71.1%	75.5%	76.1%			

指標(単位)								単位
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	60歳以上人口(上段)及び老人福祉センター設置数(下段)(令和5年1月1日現在)						
団体名	鎌倉市	横須賀市	平塚市	藤沢市	三浦市	逗子市	
他市実績	63,237人	146,188人	88,582人	131,626人	19,661人	21,176人	
	5箇所	4箇所	4箇所	3箇所	1箇所	1箇所	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	本市は60歳以上人口に対する老人福祉センターの設置数が多く、高齢者にとっての生きがいづくりやコミュニケーションの場を提供するうえで、必要な整備ができているといえる。
----------------------	--